

令和7（2025）年6月吉日

門の両脇にクロマツ（市の木）とマキ（県の木）の景観

伊藤三平

八幡、菅野の住宅街を散歩していると、門の両脇にクロマツとマキを植えている家が目に入る。当自治会内では、八幡2丁目の中村氏のお宅（下の写真参考）だけだが、意識して観ていると、八幡5丁目や東菅野、菅野の御屋敷街には見かける。



クロマツは「市川市の木」に指定されて、市民のクロマツへの愛着は強い。市川砂州に適した植物で、江戸時代には日光街道脇往還の佐倉道（現在の国道14号）の松並木としても大切にされ、江戸時代後期には、この地に多く存在した梨畑、桃畑などの境界木としても植えられていた。

一方、マキは「千葉県の木」に選定されている。「ちば文化的景観」に「館山市八幡、南房総市富浦・丸山におけるマキの生垣の集落景観」として、マキの生垣が続く道が選定されている。

千葉市で長く造園業を営んでいた知人に確認すると「門にかぶさるように一本枝を伸ばした仕立て物を”門かぶり”といい、クロマツが圧倒的に多い。マキは庭の主木として、仕立て物がよく使われます。マツの門かぶりとマキの仕立て物は関東に圧倒的に多いが、門には左右どちらかにマツの門かぶり一本を植える事がほとんどです。マキは近くにあっても門かぶりには使いません」との回答であり、この地（八幡、菅野の御屋敷街）の特色ある文化的景観（自然と人工の景観が融合したもので、人間の文化活動や経済活動が生み出した景色）と考えられる。

【参考：門の両脇にクロマツとマキを配した家々】

写真は他にもあるが、9枚だけを参考に掲示する。植木屋さんが入って、クロマツは姿良く、マキは”玉造り”という仕立てになっている家や、昔、門があった所の2本を残して建て替えた家がシンボル・ツリーにしているところもある。



菅野 1 丁目



菅野 1 丁目 (建て替えたが両脇の木は残す)



菅野 2 丁目



東菅野 1 丁目



東菅野 1 丁目



八幡 5 丁目



八幡 5 丁目



八幡 5 丁目



八幡 5 丁目（マツは昔からの大木）

私は、この景観は大事にしたいと考え、2022 年に市の関係部署に、千葉県とも連携して地域の文化的景観として HP にでも紹介してくれないかと提案したのですがダメでした。

この風景は、次ぎのような理由から失われていくと思いますが、記憶に留めておいてください。

- ①地価の高騰と、相続税制の為に、代替わりになると、大きな御屋敷が売却される。不動産業者は地価が高い為に土地を細分化してミニ開発として販売しやすくする。そうなる
と狭い敷地に容積率・建坪率^{けんぺいりつ}一杯の住宅を建てることになり、庭木は邪魔となる。
- ②建坪率に余裕があっても、自家用車の駐車場の優先順位が高い。
- ③庭木を考える人も、大木となって個人の剪定では難しくなる木は敬遠しがちとなる。
- ④クロマツたマキは植木職人を頼んでの剪定で樹形が整うが、こういうことにお金をかける文化がなくなりつつある。
- ⑤市川市は道路事情が悪く、狭い道路を解消する為に、建て替え時に所定の道路幅を確保することが求められ、塀脇のクロマツは伐採される。